

## 精神障がい者地域生活移行支援事業

4月からピアサポーターと一緒に取り組んできましたが今月で支援の目処がつき、地域の支援者に完全引継ぎとなりました。ご本人との出会いから10か月間はピアサポーターにとってどのような時間になったのでしょうか。今回はピアサポーターのお二人に感想を書いていただきました。

ピアサポーターになって初めて23年もの長期入院の方の退院支援と退院後の地域定着に関わらせていただきました。退院までは諸々の手続きについて覚えていなかったり、わからない面が多々ありましたが、これも勉強と割り切って動いたものです。退院後は居住先と病院間の公共交通機関を使っての往復同行を来る日も来る日もピアサポーター二人で分担して、毎日同行訓練を行いました。なかなか行き帰りの経路図が頭に入らず、自分の感覚で動く人でした。とある日、道に迷ったあげく警察署に保護された彼は、その夜、何度も何度もピアサポーターが作った経路図を“読みこなし”ていったようです。ついに彼は自分の力で居住先から病院までたどり着く術を身につけたのです。それはあくまで“病院のデイケアに通いたい！”という強い思いが彼を突き動かさせたのです。地域に根付かせる活動としては、樹齢300~400年の樹のある公園や紅葉の綺麗な公園、喫茶店に行ったり、ぎょうざを食べたり…憩いのひとときとなったようです。私は「地域移行支援」業務がやりたくてピアサポーターになった訳ですが、いい人とめぐり逢い、今は元気な姿で社会の中で暮らす彼を見て、“ピアサポーターになってつくづくよかった！”と思っています。(tsu)



このケースで大変だったのは、グループホームから病院までのバス。地下鉄の乗り換えを覚えてもらうことでした。その為にルート全体の図、駅構内図をもう一名のピアサポーターが作成し、私は手持ちのできる通称「ビヨーン」の改良を重ねました。初めて声を掛けず正しい方向へ曲がれた時は、「やったー！(感涙)」しました。土曜日はお昼前にグループホームへ行き、公園やカフェへ行ったり、土日の食料買出しなどをしました。一緒に昼食を毎回食べていたのですが、ある日Sさんが「おおもりの…」と。入院中は食に興味がないと話していたSさんの口からまさか「大盛り」という言葉が出るとは！！驚きなんだか嬉しく思いました。長期入院で写真が少なく担当ナースが写真を撮ってくれたのが嬉しかったと話してくださった事があり、私たちも何度か写真を撮り、プレゼントをしてきました。その表情は入院中と今では別人のように違います。「退院して良かった。」そう思っていただけのお手伝いを今後も続けていきたいと思えます。

対象となる方の笑顔とありがとうございますが最高のごほうび☆です。(ike)



## 誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート業務

災害支援に関する事業で、今年度は3箇所の町内会、1箇所の福祉のまちづくり推進センターから依頼があり、障がいを持っている方に関する研修会の開催等のお手伝いをさせていただきました。災害時に支援が必要な方で、同意のあった方一人一人に作成をする「個別避難計画」の様式を作成するお手伝いや、実際に町内会で災害時に支援をする方と、支援が必要となる方のマッチングについての話し合いの場に同席することもでき、地域での災害支援の実際を学ばせてもらいました。各地域によって取り組みの歴史があり、その歴史の中から災害支援が生まれてくることも感じさせていただき、地域毎の取り組みに沿ったお手伝いを行っていくことが必要だと感じています。

今年度はモデル個別避難計画の作成や、依頼のあった町内会等へのお手伝いが中心でしたが、今後も災害支援を考える地域の選択肢の一つとして本事業を活用していただけるよう、取り組みを続けていきたいと思っています。(sat)

## 平成 28 年度 第 2 回運営委員会が開かれました

1 月 31 日（火）、市役所本庁にて今年度第 2 回の基幹相談支援センター運営委員会が開催されました。この運営委員会は、基幹相談支援センターをつくるに当たって相談支援部会と市本庁により開かれていた「基幹相談支援センターあり方検討会」の中で、中立公平性担保のためのひとつの方策として提案され、市の要綱の中でも「事業計画等の意見を聴取し運営の公平性を確保する」ために設置するよう謳われているものです。

この日の委員会の議題は、平成 28 年度事業実績報告とその審議、並びに年度末及び来年度に向けた各委員との意見交換でした。ワン・オールからは、今年度の事業計画に沿いながら、①障がい者相談支援事業所の支援 ②計画相談支援の推進 ③地域相談支援の推進 ④障がい当事者による相談支援活動の支援 ⑤札幌市自立支援協議会 ⑥地域支援体制の構築 ⑦誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート事業 ⑧運営体制等 についての進捗状況のほか、道外視察についても報告しました。また、複数法人による運営のための継続的なスタッフ確保の課題も合わせて報告しました。

委員の方々からは、次のようなご意見をいただきました。

- ・札幌市自立支援協議会及び相談支援部会におけるワ・オール役割（事務局としての立ち位置）の整理
- ・今後の協議会や部会、プロジェクトのあり方などについてワ・オールからの提案や発信
- ・地域部会に見える化資料について各部会で更新の検討
- ・計画相談支援の動き等に関するワ・オールとしての関わり方の発信
- ・他領域、各機関からの相談窓口についての再検討
- ・様々な会議への出席報告
- ・業務のスリム化の検討 など



また、この運営委員会の委員選出について、今後は広く募ってもよいのではないかというご意見もいただきました。多数の機関と関わる業務が基幹相談支援センター業務の特徴のひとつです。それは、そのまま整理すべき課題の多さとしても現れてくるのだと思います。今後とも各関係機関の方々のご意見をいただきながら、少しでもお役に立てる基幹相談支援センターを目指していきたいと思っております。（oku）

## ごあいさつ



このたび札幌を離れることになり退職することになりました、吉原です。実質 1 年ちょっとの短い間でしたが、大変お世話になりました。私が“基幹相談支援センター”を初めて知ったのは大阪府堺市のお話でした。「こんなセンターが札幌にもできるのなら、ぜひ出向して勉強したい」と思ったことをよく覚えています。ただ、ワン・オールは私が行けるようなところではないなあ…と感じていました。縁あってワン・オールに勤務し始めたのは、ちょうど相談支援専門員を名乗れるようになったばかり。キャラの濃い先輩方を目の前におどおどする毎日でしたが、職場ではもちろん、仕事を通じて出会う方から、モノを考えるためのヒントをたくさんいただきました。特に地域移行ピア活用業務は『創り出す』ということからの始まりでした。学生時代の就活では「クリエイティブな仕事は避けよう」なんて思っていた私。初ケースはアイデア宝庫先輩のお陰で何とか進めることができましたが、一度経験をしてみるとそこから新たなアイデアが生まれることも。ワン・オールでの経験は、私にとって貴重なものとなりました。ここで得たことが宝の持ち腐れとならないように、またどこかで還元できたらと思います。最後に、“基幹センターは何をやっているのかわからない”という方はぜひ、ワン・オールに来てください！！…と私自身は思っています。これまでありがとうございました。（yos）



さっぽろ地域づくりネットワーク

ワン・オール

〒064-0808

札幌市中央区南 8 条西 2 丁目 市民活動プラザ星園 302 号

TEL : 011-213-0171

FAX : 011-213-0172

E-mail : [sapporo@one-all.net](mailto:sapporo@one-all.net) URL: one-all.net

